いわき市埋蔵文化財調査報告書　※（）内は発行年

第6冊 朝日長者遺跡・夕日長者遺跡（1981年）

頁　数　本文577頁/図版205頁

価　格　2,000円(割引価格)

概　要　泉町下川に所在し、朝日長者遺跡109棟、夕日長者遺跡80棟の竪穴住居跡が検出された東北地方最大級の古代集落跡の調査報告。なかでも、朝日長者遺跡の２基の土坑から出土した祭祀関連遺物や、両遺跡の時代別集落及び遺物変遷についての論考が特筆される。

第7冊　内宿遺跡（1982年）

頁　数　本文86頁/図版24頁

価　格　800円(割引価格)

概　要　平下神谷に所在する古墳時代前・後期、奈良・平安時代の集落跡の調査報告。浜堤上に立地する集落として注目される。とりわけ古墳前期の土器セットは貴重である。また、市内出土の古式土師器集成を収録。

第9・10冊 日吉下遺跡・四郎作遺跡（1983年）

頁　数　【日吉下】本文219頁/図版75頁
【四郎作】本文192頁/図版56頁

価　格　2,000円(割引価格)

概　要　常磐三沢町に所在する日吉下遺跡は、中世城館の調査報告。14～16世紀の陶磁器が出土。古墳時代～平安時代の竪穴住居跡、木炭窯の調査成果もあわせて収録。鹿島町米田に所在する四郎作遺跡は、近世民家の調査報告。15棟の掘立柱建物跡と近世陶磁器の出土は注目される。弥生土器・陶硯についての論考を収録。

第11冊 龍門寺遺跡（1985年）

頁　数　本文827頁/図版151頁

価　格　2,000円(割引価格)

概　要　平下荒川に所在する縄文時代早期（撚糸文系）～江戸時代にわたる複合遺跡の調査報告。竪穴住居跡２棟と遺物包含層より、膨大な量の磨消縄文系土器群（弥生中期前半）が出土し、学会の注目するところとなった。土器の特徴から「龍門寺式」を提唱している。また古墳時代～平安時代の集落、6～7世紀の円墳、中・近世陶磁器資料と内容豊富。

第12冊 愛谷遺跡（1985年）

頁　数　本文2576頁/図版160頁

価　格　3,500円(割引価格)

概　要　好間町愛谷に所在する縄文時代～中世の大規模複合遺跡（出土遺物約 220万点）の調査報告。縄文集落の斜面に廃棄された遺物包含層出土の縄文時代中期～後期初頭を中心とする約４万点におよぶ土器・石器・石製品・土製品などを掲載。東北地方南部の該期土器編年を確立。弥生時代天王山式期竪穴住居跡、古墳時代前期の方墳（鉄刀・鉄剣・有肩鉄斧・袋状鉄斧・臼玉など出土）、中世城館縄張りなどの全容を解明。

第12冊 弾正作横穴群（1985年）

頁　数　本文318頁/図版79頁

価　格　1,000円(割引価格)

概　要　好間町今新田に所在し、丘陵斜面部の 159基の横穴と同一丘陵頂部平坦面の16棟の竪穴住居跡（古墳時代～平安時代）の調査報告。横穴の形態的・時間的変遷及び集落と横穴の関連など多くの成果を所収。横穴から須恵器や青銅製六鈴釧・勾玉・管玉・ガラス玉など多くの遺物が出土している。

第17冊 石坂遺跡（1987年）

頁　数　本文152頁/図版44頁

価　格　500円(割引価格)

概　要　好間町中好間に所在する国道49号平バイパス関連の調査報告。平安時代の竪穴住居跡３棟、中世～近世の掘立柱建物跡11棟などを検出。古代の土器や中世～近世農家の建物配置の変遷についてまとめている。

第18冊 寺台遺跡（1988年）

頁　数　本文236頁/図版55頁

価　格　700円(割引価格)

概　要　好間町中好間に所在する国道49号平バイパス関連の調査報告。出土遺物は、縄文時代早期～江戸時代後期に及び、特に古墳時代～平安時代の土師器（手捏土器の一括資料）、平安時代の土師器（セット関係）が特筆される。また、いわき地方における手捏土器の変遷と平安時代の土器（ロクロ土師器）の編年を収録。

第21冊 屋敷前遺跡（1988年）

頁　数　本文134頁/図版52頁

価　格　500円(割引価格)

概　要　好間町北好間に所在する先土器時代～江戸時代までの遺構・遺物が検出された遺跡の調査報告。縄文時代前期初頭の陥し穴状遺構、江戸時代の輪宝墨書土器など内容豊富。

第25冊 御台横穴A群・御台遺跡（1989年）

頁　数　本文158頁/図版92頁

価　格　600円(割引価格)

概　要　内郷御台境町に所在する横穴群とその丘陵頂部調査報告。横穴は46基を調査し、古墳時代～平安時代まで存続することが知られた。第18号横穴からは県内最古相を示す提瓶、6世紀後半の直刀が出土。

第27冊 岸遺跡（1990年）

頁　数　本文237頁/図版80頁

価　格　900円(割引価格)

概　要　渡辺町田部に所在する古代～中世を主体とする遺構群の調査報告。墨書土器、木製品、土製馬、オランダ焼、蛇紋岩製石帯の出土が特筆される。付編には出土した木製品やオランダ焼・獣骨類についての論考を収録。

第35冊 小山遺跡（1994年）

頁　数　本文47頁/図版14頁

価　格　300円(割引価格)

概　要　平中山に所在する国道６号常磐バイパス関連の調査報告。遺構は、竪穴住居跡３棟（奈良時代前期１棟、後期１棟、平安時代前期１棟）、土坑３基、炭窯１基が検出。遺物では、弥生時代後期土器、土師器甕・須恵器が出土。

第36冊 上ノ原C遺跡（1994年）

頁　数　本文36頁/図版14頁

価　格　300円(割引価格)

概　要　小川町西小川に所在する古墳時代後期集落の調査報告。４棟の竪穴住居跡を検出。第１号住居跡から出土した土器群は、いわき市内のこの時期の編年を考察する上で基準資料となろう。

第44冊 大平B遺跡・大平C遺跡（1996年）

頁　数　本文144頁/図版33頁

価　格　700円(割引価格)

概　要　平赤井に所在する常磐自動車道関連の調査報告。大平Ｂ遺跡から古墳時代後期の竪穴住居跡が５棟検出された。また近代の屋敷跡も注目される。大平Ｃ遺跡からは古代の木炭焼成土坑が検出された。巻末に木炭焼成土坑関連の６編の付篇と、木炭焼成実験のカラー図版を掲載した。

第48冊 永田遺跡（1997年）

頁　数　本文102頁/図版42頁

価　格　700円(割引価格)

概　要　四倉町白岩に所在する白岩バイパス関連の調査報告。弥生時代中期のコーン・グロス（光沢）を有する大型剥片石器２点が発見された。平安時代の竪穴住居跡６棟及び鍛冶炉４基を検出。皿状木製品（漆器）や10世紀中葉～後葉の土師器の一括資料が注目される。大型剥片石器の使用痕分析、皿状木製品の表面塗装分析などを付篇として掲載した。

第49冊 大谷遺跡・花ノ井遺跡（1997年）

頁　数　本文44頁/図版16頁

価　格　300円(割引価格)

概　要　平平窪に所在する大谷遺跡は、近世～近代にかけての集礫と整地層を確認。錦町に所在する花ノ井遺跡は、平安時代の竪穴住居跡・土師器を検出。周辺地域では初めて縄文時代晩期大洞C2式とＡ式をつなぐと思われる土器が確認された。

第50冊 泉町C遺跡（1997年）

頁　数　本文139頁/図版33頁

価　格　600円(割引価格)

概　要　泉町滝尻に所在する泉第三土地区画整理事業関連の調査報告。弥生・古墳時代の集落跡と近世・近代の陶磁器を含む遺物包含層を検出。古墳時代後期の竪穴住居跡からは良好な一括資料が出土。陶磁器は、泉藩の城下町における庶民生活を窺わせるものであり、市内の代表的な近世・近代陶磁資料を網羅的に掲載した。

第51冊 小茶円遺跡（1997年）

頁　数　本文36頁/図版10頁

価　格　200円(割引価格)

概　要　平山崎に所在する小茶円遺跡は、多数の灰釉陶器や木簡を出土したことで知られている。本調査地点からは、平安時代の竪穴住居跡３棟、掘立柱建物跡１棟を検出。14世紀中頃の常滑産広口壺、古瀬戸の瓶子等が出土している。

第55冊 上ノ原経塚（1998年）

頁　数　本文154頁/図版81頁

価　格　1,500円(割引価格)

概　要　好間町北好間に所在する平安時代（12世紀）の経塚の調査報告。紙本朱書法華経８巻・銅鋳製経筒（宝珠鈕付甲盛り印籠蓋有節円筒式）１口のほかに鉄小刀・鉄・須恵器・赤焼土器・白磁などの副納品が多数出土。経塚は段丘礫乱積みによる小石室構造（有式Ｄ型式）を呈し、鉄小刀と鉄の配置から一定の法式による儀式のようすが明らかとなった。

第57冊 五反田A遺跡（1999年）

頁　数　本文152頁/図版50頁

価　格　900円(割引価格)

概　要　平上平窪に所在する常磐自動車道延伸関連の調査報告。奈良時代～平安時代に位置し、窯変した須恵器を転用した暗渠状の周溝と外周溝を持つ竪穴住居を検出。遺物では、東北地方で最も古い段階のロクロ使用の土師器杯とロクロを使用しない土師器杯や須恵器杯がセットで出土。

第58冊 白岩堀ノ内館跡（1999年）

頁　数　本文123頁/図版65頁

価　格　600円(割引価格)

概　要　四倉町白岩に所在する白岩バイパス関連の調査報告。弥生時代中期後葉～末葉を主体とする遺物包含層より磨製石斧やその未成品、刃部を形成し光沢を有する剥片石器、円形に整形し両面に　鉢状の凹みを持つ滑石製石器を出土。古代では、古墳時代中期後半の一括資料が注目される。

第59冊 小茶円遺跡・上ノ内遺跡（1999年）

頁　数　【小茶円】本文23頁/図版12頁
【上ノ内】本文19頁/図版10頁

価　格　300円(割引価格)

概　要　平山崎に所在する小茶円遺跡（馬場地区）は、竪穴住居跡が検出され９世紀末～10世紀初頭に属する土師器杯・赤焼土器などの遺物が出土。勿来町四沢に所在する上ノ内遺跡（２次調査）は、縄文時代～平安時代の複合遺跡。縄文時代後期前葉の包含層と竪穴住居跡を検出。多量の縄文土器（綱取II 式期）などが出土。

第60冊 屋敷前遺跡（1999年）

頁　数　本文136頁/図版36頁

価　格　700円(割引価格)

概　要　好間町北好間に所在する常磐自動車道関連の調査報告の第４集。昭和60年度に続く第２次調査にあたる。旧石器では荒屋型彫器１点を検出。古代では竪穴住居跡６棟と掘立柱建物跡１棟を検出。近世では現存する屋敷地の平場から建物跡と廃棄土坑が検出された。

第64冊 大場C遺跡（1999年）

頁　数　本文70頁/図版20頁

価　格　600円(割引価格)

概　要　久之浜町久之浜に所在する国道６号久之浜バイパス関連の調査報告。古墳時代後期～奈良時代初頭に属する竪穴住居跡２棟、陥し穴や貯蔵穴と推定される土坑群、弥生時代中期の遺物包含層を検出。底面に円形の小穴を有する円筒形土坑の検出は市内初出。

第65冊 白岩堀ノ内遺跡（2000年）

頁　数　本文154頁/図版43頁

価　格　600円(割引価格)

概　要　四倉町中島に所在する白岩バイパス関連の調査報告。弥生時代中期後葉を主体とした遺物包含層より出土した土器と石器・石製品や平安時代の流路跡より出土した土師器・須恵器・木製品などの遺物は注目に値する。近代窯跡関連の窯道具・窯体片及び碗や皿などの製品と軌道跡の検出も見のがせない。

第67冊 上ノ台遺跡（2000年）

頁　数　本文419頁/図版111頁

価　格　1,700円(割引価格)

概　要　好間町北好間に所在する常磐自動車道延伸関連の調査報告。縄文時代早期～前期前半を主体とした集落と江戸時代の屋敷跡の報告。縄文時代の集落から早期末の東海系土器や大木2a式土器が出土。江戸時代の屋敷跡は、２軒分の敷地跡が確認され屋敷墓跡も検出。

第68冊 大谷遺跡（2000年）

頁　数　本文360頁/図版113頁

価　格　1,900円(割引価格)

概　要　平中平窪に所在する常磐自動車道延伸関連の調査報告。平奈良時代～平安時代を主体に、江戸時代中期～後期の遺構・遺物を多数検出。奈良時代～平安時代の遺構として、竪穴住居跡17棟、掘立柱建物跡18棟、柱穴列跡６条、井戸跡１基の他に「國」銘墨書須恵器を多出した祭祀土坑がある。奈良時代末～平安時代の土師器・須恵器は土器変遷を考える上で重要。近世墓10基の検出も特筆される。

第71冊 郡遺跡・広畑B遺跡（2000年）

頁　数　本文66頁/図版32頁

価　格　300円(割引価格)

概　要　勿来町窪田に所在する郡遺跡の陸奥国菊多郡衙跡の第３次調査報告。奈良時代の高床式総柱建物跡が検出され、郡衙の正倉に比定された。縄文時代中期末～後期前葉の敷石住居跡１棟・竪穴住居跡３棟も検出。好間町小谷作に所在する広畑Ｂ遺跡は、平安時代の遺物包含層を検出した。あわせて、遺跡内から採集された古墳時代の土製・石製模造品を収録した。

第73冊 松ノ下遺跡（2001年）

頁　数　本文446頁/図版115頁

価　格　1,800円(割引価格)

概　要　川部町に所在する縄文時代中期のいわきを代表する集落跡の調査報告。34棟の竪穴住居跡や多数のフラスコ状土坑が検出された。４棟は東関東系の有段式竪穴である。縄紋時代前期では興津式土器と大木５式土器が共伴する土坑もあり、土器編年を考える上で注目される。付篇は、人骨の分析、黒曜石の産地同定、樹種・堅果の同定を収録。

第74冊 石坪遺跡（2001年）

頁　数　本文64頁/図版28頁

価　格　400円(割引価格)

概　要　大久町大久に所在する国道６号久之浜バイパス関連の調査報告。丘陵斜面から裾部にかけて、古墳時代後期を中心とした竪穴住居跡10棟が検出。小礫に「大」と墨書きされた経石１点が調査区内より出土している。

第77冊 横山B遺跡（2001年）

頁　数　本文313頁/図版104頁

価　格　1,300円(割引価格)

概　要　平下平窪に所在する常磐自動車道関連の調査報告。旧石器時代～江戸時代後期の遺物・遺構を多数検出した。特に、縄文中期（大木7b～8a・8b式期中心）の竪穴住居跡７棟・貯蔵穴17基、縄文時代晩期終末期の竪穴住居跡１棟・土坑群の検出は特筆される。また、６世紀後半の古墳（群集墳の一部）主体部からは、人骨・小刀・鉄などが出土した。掘立柱建物跡11棟や井戸跡・土坑群の検出によって、近世村落の一様相が解明された。

第78冊 横山古墳群B・金波遺跡・北ノ作B遺跡（2001年）残部少

頁　数　本文14頁/図版15頁

価　格　300円(割引価格)

概　要　【横山古墳群B】
平上平窪に所在する半分ほど残存していた円墳の範囲確認調査報告。直径約15m・高さ約1.8m。主体部は凝灰質砂岩を用いた積石の横穴式石室。
【金波遺跡】
四倉町白岩に所在している平安時代集落の試掘調査報告。土師器など出土。
【北ノ作B遺跡】
四倉町白岩に所在する隣接する丘陵上に営まれた古墳時代～平安時代の集落から流れ込んだと考えられる遺物包含層の試掘調査報告。土師器など出土。

第79冊 千速A遺跡（2001年）

頁　数　本文29頁/図版8頁

価　格　300円(割引価格)

概　要　小名浜下神白に所在する丘陵斜面部の調査報告。調査面積100　ながら土器・石器を含む弥生時代中期末葉～後期初頭の遺物包含層を検出した。

第80冊 稲荷原遺跡（2002年）

頁　数　本文194頁/図版45頁

価　格　600円(割引価格)

概　要　好間町上好間に所在する弥生時代集落跡の調査報告。弥生時代中期後半に属する竪穴住居跡と、陥し穴を含む土坑群を検出。また、平安時代の竪穴住居跡も検出している。

第81冊 小茶円遺跡（2002年）

頁　数　本文79頁/図版33頁

価　格　400円(割引価格)

概　要　平山崎に所在する古代集落の調査報告。竪穴住居跡１棟、掘立柱建物跡２棟などが検出された。住居跡の覆土中からは、８世紀後半の一括資料が出土している。第４号土坑は、市内でも２例目となる中世の火葬施設と考えられる。

第84冊 荒田目条里制遺構・砂畑遺跡（2002年）

頁　数　本文1570頁/図版250頁

価　格　2,800円(割引価格)

概　要　平荒田目・菅波に所在する古代陸奥国磐城郡官衙関連遺跡の調査報告。弥生時代～近世までの複合遺跡で、特に奈良・平安時代には豪族居宅を中心とした集落が出現し、８世紀後半～10世紀中葉までの７期の変遷が確認された。遺物では多量の墨書土器、木簡・帯金具・人面墨書土器・漆紙文書などや、集落に伴う水田跡の大溝跡からは祭祀遺物が多量に出土している。郡符木簡が出土した荒田目条里遺跡は、この大溝跡の上流にあたる。他に、弥生時代前期の北奥遠賀川系土器やコーングロスが認められる板状剥片石器を含めた多量の弥生時代の石器類、東海系の古式土師器類、北関東の影響を受けた埴輪、中国産の白磁四耳壺・青白磁梅瓶、幕末のヨーロッパ産の輸入陶器などが出土している。

第89冊 上ノ台遺跡（2002年）残部少

頁　数　本文60頁/図版28頁

価　格　400円(割引価格)

概　要　好間町北好間に所在する常磐自動車道延伸に伴う家屋移転による宅地造成関連の調査報告。縄文時代前期の竪穴住居跡２棟（大木2a式・浮島I式）、平安時代の住居跡３棟を調査、浮島I　式期の住居跡は市内初の検出となった。平安時代では、常磐道関連調査の成果（いわき市埋蔵文化財報告67冊）とあわせて、集落の構成がわかる事例となった。

完　売

第90冊 栗木作遺跡（2002年）残部少

頁　数　本文159頁/図版50頁

価　格　800円(割引価格)

概　要　四倉町に所在する市道建設工事関連に伴う調査報告。Ａ区の土抗からは、縄文時代早期の一括資料や弥生時代の石斧の未製品、Ｂ区の住居跡からは石器が埋納された状態で出土している。いわき市内の弥生時代中期の良好な資料といえる。

第91冊 桜町遺跡（2002年）

頁　数　本文105頁/図版30頁

価　格　300円(割引価格)

概　要　平に所在し、近世磐城平城跡西縁部の調査報告。古墳時代前期～平安時代に属する集落跡、古墳を検出。古墳時代前期の住居跡からは、共伴する土師器のセットが出土した。また、中世～近世に属する墓跡群を検出し、陶磁器・銭貨類等の遺物と人骨10体が出土した。他に、弥生土器・独鈷石等が出土している。

第103冊 折返B遺跡（2004年）残部少

頁　数　本文114頁/図版35頁

価　格　600円(割引価格)

概　要　泉町滝尻に所在する平安時代の集落跡の調査報告。竪穴住居跡４棟、掘立柱建物跡10棟が検出されている。柱材の14C年代測定により掘立柱建物跡の年代が８世紀～９世紀と判明。

第107冊 夏井廃寺跡（2004年）残部少

頁　数　本文272頁/図版111頁

価　格　1,300円(割引価格)

概　要　平下大越に所在する陸奥国磐城郡古代寺院跡の調査報告。磐城郡衙（根岸遺跡）関連寺院の調査。福島県指定史跡の塔跡を含め主要堂塔３棟とその伽藍域を区画する溝を検出。付属施設の掘立柱建物跡・幢竿支柱跡を検出。最も新しい段階の中門を検出。平成17年に根岸官衙遺跡群として国指定史跡となった。

完売

第110冊 菊竹遺跡（2005年）残部少

頁　数　本文122頁/図版47頁

価　格　500円(割引価格)

概　要　好間町小谷作に所在する古墳時代墓跡と平安時代集落跡の調査報告。遺構は、円墳２基・土　墓９基・竪穴住居跡４棟・土器棺墓１基などが検出された。遺物では、円墳周溝からのU字型鋤先、土　墓から鉄剣・鉄刀・刀子など鉄製品の出土が特筆される。また、竪穴住居跡からは、10紀代に比定される土器の一括資料が出土した。

第119冊 和具B遺跡・和具C遺跡（2007年）

頁　数　本文82頁/図版22頁

価　格　1,000円

概　要　四倉町下柳生地内にあって、仁井田川の河岸段丘裾部に形成された古墳時代・中世の集落跡の調査報告。和具Ｂ遺跡の大型土坑から12世紀代の龍泉窯青磁碗および常滑系甕が出土した。中世の時期に沢を埋めるなどの開発行為が想起される。和具Ｃ遺跡の竪穴住居跡は古墳時代後期に属する。

第154冊 古川遺跡（2013年）

頁　数　本文160頁/図版40頁

価　格　2,100円

概　要　古川遺跡は屋内運動場の改築工事により平成19年に実施された発掘調査の報告書である。検出された主な遺構は竪穴住居跡、土坑、古墳であり、石製模造品の出土が多いことから、工房跡の存在が推測される。出土遺物は古墳時代から平安時代が主体となる。古墳時代の良好な資料が多く、大浦地区の古墳時代の様相を考える上で貴重な遺跡と言える。

第168冊 三反田B遺跡･三反田遺跡･薄磯貝塚2（2015年）

頁　数　本文78頁/図版22頁

価　格　890円

概　要　【三反田B遺跡】
土坑・ピット群を検出した。土坑は弥生時代に、ピット群は縄文時代に位置づけられる可能性がある。調査区内からは弥生時代中期中葉から末葉の沈線文系土器群が出土し、それにともなって石　・太型蛤刃石斧・扁平片刃石斧・ノミ形石斧・有角石器などの石器が出土した。中でも有角石器は市内５例目の出土となり、特筆される。
【三反田遺跡】
土坑・溝跡を検出した。いずれも近代以降のものと判断される。遺物は表土より近・現代の陶磁器が出土した。
【薄磯貝塚】
堀立柱建物跡・土坑・溝跡・ピット・土手状遺構・盛土遺構・遺物包含層を検出した。遺物包含層からは磨消縄文系土器、石器・石製品が出土し、弥生時代中期に位置づけられる。堀立柱建物跡・土坑・溝跡・ピット・土手状遺構は、周辺より近世の陶磁器が出土しており、近世以降に比定される。いずれも浅く、後世に強い削平を受けている。盛土遺構はこの削平によって生じた凝灰岩礫を用いて構築されており、近代以降に比定される。

第173冊 久世原館跡5・番匠地遺跡4（2015年）

頁　数　本文104頁/図版33頁

価　格　1,100円

概　要　久世原館跡・番匠地遺跡は、福島県内で最初に弥生時代中期末の水田跡が発見された遺跡である。今回の発掘調査では、土坑、溝跡、水田跡、遺物包含層などの遺構が検出され、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器・石製品、木製品などの遺物が出土した。水田跡は平安時代と推定され、水田区画のほか水路・畦畔・水口等の付属施設も確認された。また、第２号溝跡・遺物包含層より、弥生時代中期から後期の土器を中心とする多量の遺物が出土した。

第174冊 上野遺跡２（2016年）

頁　数　本文50頁/図版26頁

価　格　700円

概　要　上野遺跡は福島県いわき市好間町北好間字上野地内に所在し，好間川左岸の河岸段丘台地上に立地する。個人宅地造成に伴って、畑地の調査を実施した。その結果，縄文時代中期の竪穴住居跡１棟・貯蔵穴３基と、古代の竪穴住居跡２棟をはじめ、弥生時代中期末葉の合わせ口土器棺墓１基を検出した。また、遺構の内外や遺物包含層から弥生時代中期末葉と後期中葉～末葉の土器が出土している。とくに、交互刺突文と磨消縄文で文様が構成されるものや無文土器の一群、さらに完器の採集資料は、近年の市内の調査資料とも比較することができる良好な資料である。

第179冊 泉町C遺跡２（2017年）

頁　数　本文358頁/図版60頁

価　格　4,000円

概　要　泉第三土地区画整理事業に伴う泉町Ｃ遺跡の発掘調査は、平成４年の１区から開始され、本書には２～17区の調査成果を収録した。調査の結果、古墳時代前期の折返Ａ遺跡・菅俣Ｂ遺跡の「豪族居館」を中心とした集落の範囲が確認された。古墳時代後期から奈良時代には、大規模な集落の形成が確認された。また、関東地方の影響を受けた土器や東海産の須恵器、骨などの広範な交流が推測される遺物が出土した。さらに、近世の「堀江」や廃棄坑の検出など、泉藩の城下町外側の土地利用の様相が明らかとなった。

第182冊 北境遺跡･酒井酒井原遺跡･泉城下町遺跡（2017年）

頁　数　本文52頁/図版14頁

価　格　2,800円

概　要　収録された3つの遺跡の内、北境遺跡･酒井酒井原遺跡では狭い範囲の調査ながら、複数の竪穴建物跡と比較的多量の土師器･須恵器が検出された。この2遺跡から出土した土師器甕の中には、口縁部に凹面を有するものが認められている。これらは常陸地方を中心に分布するいわゆる「常陸甕」と共通する特徴を有するものである。体部の調整等で異なる点が認められることから、直接的に「常陸甕」とは言い難いものの、常陸地方の影響を色濃く反映した土器であると言える。住居に着目すれば、北境遺跡･酒井酒井原遺跡ともに関東系でもある煙道の短いタイプのカマドが主体をなすが、酒井酒井原遺跡では煙道の長い在地的なタイプのカマドも検出されており、その様相は複雑と言える。古代において、陸奥国と常陸国の関係を考える上で、重要な遺跡である。また、泉城下町遺跡では、近世から近代の溝跡が複数検出された。

研究紀要　※（）内は発行年

研究紀要　第８号（1997年）

頁　　数　本文47頁

価　　格　300円(割引価格)

概　　要　横穴報告書についての二、三の検討
－いわきの横穴群から－（渡邉一雄）
いわき市荒田目条里遺跡出土木簡の意義（橋本玲子）
窪田外城跡について－歴史地理学的方法による歴史景観復原の試み－
（江川逸生）
磐城の古式捕鯨－磐城七浜捕鯨絵巻から－（小野浩）

研究紀要　第９号（1998年）

頁　　数　本文37頁

価　　格　300円(割引価格)

概　　要　縄文後・晩期におけるいわき地方の地域性
－骨角器の製作工程を中心に－（猪狩みち子）
いわき地方の弥生土器編年について（中村五郎）
いわき市域における５～７世紀の土師器甕について（江川逸生）

研究紀要　第10号（1999年）

頁　　数　本文26頁

価　　格　300円(割引価格)

概　　要　古代磐城郡「和郷」に関する諸問題（渡邉一雄）
いわき市勿来町御城前遺跡の考古資料
（中山雅弘、山崎京美、大津拓直）

研究紀要　第11号（2000年）

頁　　数　本文66頁

価　　格　300円(割引価格)

概　　要　いわき市勿来町郡遺跡の考古資料（中山雅弘）
荒田目条里遺跡礼堂地区出土の石製・土製模造品ノート（矢島敬之）
いわき市泉町出土の墨書土器について（斉藤美穂）
トータルステーションによる遺構断面図の作成（棚良幸広）

研究紀要　第12号（2003年）

頁　　数　本文18頁

価　　格　130円(割引価格)

概　　要　連郷遺跡における漁撈活動について（猪狩みち子）
いわき市川部町横根遺跡出土の人面装飾付土器（木幡成雄）
いわき市常磐西郷町採集の子持勾玉について（松嶋直実）

研究紀要　第13号（2005年）

頁　　数　本文51頁

価　　格　300円(割引価格)

概　　要　いわき市番匠地遺跡における水さらし場遺構の検討（渡辺誠）
作Ｂ遺跡の調査概要と自然科学分析調査（高島好一）
いわき市考古資料館における展示・収蔵に関する調査報告（伊藤健司）
附篇：連郷Ｂ遺跡出土木製品に発生した白色粉体の分析（植田直見）

研究紀要　第15号（2017年）

頁　　数　本文25頁

価　　格　500円

概　　要　いわき市アンモナイトセンター体験発掘場より産出した白亜紀新世の*Mesopuzosia*属大型アンモナイトとその古生物学的意義（中田健太郎）
伊賀屋敷遺跡出土の仏教関連遺物と古代菊多郡について（猪狩みち子）
国魂経隆遺領配分状案にみる国魂氏一族について（中山雅弘）

研究紀要　第16号－設立40周年記念論集－（2018年）

頁　　数　本文120頁

価　　格　1000円

概　　要　いわき市アンモナイトセンター上部白亜系双葉層群足沢層より産出したコニアシアン・アンモナイト（二上政夫・鈴木　直）
伊豆半島下田市周辺の新第三系白浜層群原田層から産出した生痕化石（歌川史哲）
愛谷遺跡出土の皿状土製品について（樫村友延）
神谷作101号墳出土埴輪小考（木幡成雄）
＜研究ノート＞
いわきの式内社覚書　－記録に見る神社観の変遷－（中山雅弘）
鉛弾考　－水品遺跡出土の金属製品について－（末永成清）
いわき地方の道標（１）－戊辰戦争編－（矢島敬之）
「勿来関冠題辞」碑について（馬目聖子）
草野心平と文芸誌「毒草」（渡邊芳一）
いわき市生涯学習プラザにおける地域情報発信の試み
－開館15周年記念企画展『写真に見るいわきの映画館』を中心に－（鈴木秀幸・棚良幸広）
＜資料紹介＞
吉野せい・草野心平書簡翻刻－吉野せい著『暮鳥と混沌』刊行に至る経緯を解く資料として－（長谷川由美）

研究紀要　第17号（2019年）

頁　　数　本文64頁

価　　格　1000円

概　　要　いわき市アンモナイトセンター内の双葉層群足沢層化石密集荘より産出した化石群（歌川史哲）
福島県いわき市の双葉層群足沢層のチャート礫より産出した三畳紀放散虫化石について（歌川史哲）
いわき市砂畑遺跡から出土した「道口」の墨書土器について（猪狩みち子）
いわき地方の道標(2)　塩の道編-（矢島敬之）
草野心平と粟津則雄「ゴーギャンの赤」をめぐって（渡邊芳一）

研究紀要　第18号（2020年）

頁　　数　本文76頁

価　　格　1000円

概　　要　双葉層群足沢層（アンモナイトセンター）から産出されたカメ化石（高萩純・鈴木直）
いわき市関船館下遺跡出土のかわらけについて（猪狩みち子）
勿来の関の石祠について～奥州の宮と関東の宮～（中山雅弘・馬目紗希）
いわき市勿来町に鎮座する国魂神社の由緒略記について（歌川史哲）
いわき地方の道標(3)-三坂・仁井町街道編-（矢島敬之）
「草野心平日記」をめぐる草野杏平氏への聞き書き（渡邊芳一）

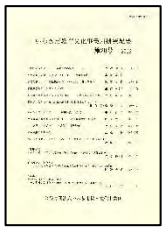
研究紀要　第19号（2022年）

頁　　数　本文154頁

価　　格　1000円

概　　要　いわき市平神谷作202号墳出土の埴輪について（樫村友延）
古代磐城郡における小茶円遺跡の役割－小茶円遺跡を再考する－（猪狩みち子）
白水阿弥陀堂苑池年代考（中山雅弘）
いわき出土の渡来銭貨(1)－錦町上中田出土銭の紹介を通して－（木幡成雄）
いわき地方の道標(3)－名所旧跡編－（矢島敬之）
いわき市の十六夜講について－三和町上三坂の十六夜講を事例に－（齋藤りぼん）
「草野心平日記」をめぐる聞き書き　草野杏平氏、草野好弘氏より（渡邊芳一）
『緑筠軒詩鈔』に関する大須賀筠軒宛大須賀乙字書簡の考察（渡邊千香）
岩城常隆発給文書の年代比定（佐藤耕太郎）

研究紀要　第20号（2023年）



頁　　数　本文232頁

価　　格　1000円

概　　要　遺物の正面を考える－薄磯貝塚の岩板－　その１（大滝駿介）
いわき地方の土偶について－考古資料集成Ⅰ　－（木幡成雄）
古墳時代の古海岸線と遺跡分布－いわき市南部の事例－（歌川史哲）
古代菊多郡の土器様相について（猪狩みち子）
根岸官衙遺跡群と周辺の古代交通路－旧石城国域の陸上交通－（太田勇陽）
福島県いわき市平成団地造成地採集の鉄滓類について（松嶋直実、吉田秀享）
いわき市中山館と中山氏 ～戦国時代の城館跡～（中山雅弘）
風船爆弾勿来基地の諸問題(1)～戦争遺構の保存に向けて～（梛良幸広）
いわき地方の道標　－近代Ⅰ　・記念碑編－（矢島敬之）
葬送儀礼での被り物（渡邊彩）
草野天平の『私のふるさと』をめぐって　草野杏平氏への聞き書きより（渡邊芳一）
〈資料紹介〉吉野せい『北風の通信』翻刻　吉野せい著『暮鳥と混沌』刊行に至る経緯を解く資料として（長谷川由美）
白木英尾の生涯と作品（渡邊千香）
〈資料紹介〉　いわき市勿来関文学歴史館蔵「鈴木家文書」－鈴木寿山関係史料－（佐藤耕太郎）

研究紀要　第21号（2024年）

頁　　数　本文152頁

価　　格　1000円

概　　要　いわき市常磐藤原町の新第三系湯長谷層群から産出した軟体動物化石（歌川史哲）
縄文時代後・晩期の陥し穴猟(1)ー円形陥し穴「207タイプ」の基礎的検討－（滝沢勇馬）
いわき地方の祭祀遺物について(2)－いわきの考古資料集成－（木幡成雄）
荒田目条里遺跡１号木簡に見える「立屋津」の所在地－いわき市四倉町細谷「御殿」伝承との関連から－（太田勇陽）
いわき地方の道標(6)　－近代Ⅱ　・道路元標編－（矢島敬之）
草野天平「私のふるさと」をめぐって　空中写真をもとにした草野杏平氏への聞き書き（渡邊芳一）
〈資料紹介〉いわき市勿来関文学歴史館蔵星製薬株式会社関係資料（佐藤耕太郎）
岩城親隆発給文書の年代比定（佐藤耕太郎）
山名菅村と俳句（渡邊千香）

研究紀要　第22号（2025年）

頁　　数　本文140頁

価　　格　1000円

概　　要　いわき市周辺の自然貝層及び貝塚から産出した完新世二枚貝の消長
（歌川史哲）
綱取式土器研究史ノート（その１）（中山雅弘）
縄文時代後・晩期の陥し穴猟（２）－円形陥し穴「207タイプ」を用いた狩猟方法の検討－（滝沢勇馬）
日本古代における水運要地としての「ナグ」と「ナギ」－『丹後国風土記』逸文「奈具」社条と陸奥国磐城郡「和」郷－（太田勇陽）
いわき市内出土の墨書・刻書土器－いわき地方の考古資料集成III －（木幡成雄・太田勇陽）
いわき市平絹谷青瀧観音堂の棟札について（樫村友延）
いわき地方の道標・補遺－新知見の近代道標と道路元標－（矢島敬之）
「語り伝えたい記憶～風船爆弾と学徒動員～」展に寄せられた声
－アンケート・感想から－（渡邊千香）
松禅院での草野天平、梅乃と詩碑「弁慶の飛び六法 勧進帳を観て」をめぐって小森秀恵大僧正、草野杏平氏への聞き書き（渡邊芳一）
教育・文化施設における「寄席」の実施について
～常務理事退任に当たって～（鈴木善明）

研究紀要　第23号（2026年）

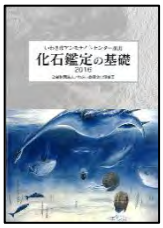
頁　　数　本文108頁

価　　格　1000円

概　　要　綱取式土器研究史ノート（その２）（中山雅弘）
縄文時代後・晩期の陥し穴猟（３）－円形陥し穴「207タイプ」分布域における狩猟活動－（滝沢勇馬）
いわき市内出土の古代文字資料２－いわき地方の考古資料集成IV－（木幡成雄）
泉城跡第５号土坑出土「倣定窯」白磁口禿皿（飯村　均）
いわきの千匹供養塔と民話その他－新知見の「猪鹿千丸供養」塔の紹介を兼ねて－（矢島敬之）
近代平駅遺構復元の試み～平城跡発掘成果と古写真による推定～（棚良幸広）
いわき市勿来関文学歴史館蔵「清光堂書展関係資料」（渡邊千香）
松禅院での草野天平、梅乃と草野心平随筆「天平の最期」をめぐって
草野杏平氏からの聞き書き（渡邊芳一）

その他・委託図書　※（）内は発行年

化石鑑定の基礎（2015年）



頁　　数　本文フルカラー46頁B6版

価　　格　500円

概　　要　いわき市アンモナイトセンターから産出される化石を1冊にまとめ、写真付きで紹介。体験発掘の際の手引きとしてご活用下さい。
（公益財団法人いわき市教育文化事業団発行）

いわき市の文化財（2017年改訂版）

頁　　数　本文295頁/フルカラー

価　　格　2,500円

概　　要　いわき市内に所在する国・県・市の指定文化財274件（平成28年5月2日指定分まで）をいわき市文化財保護審議会監修の上収録。
（いわき市教育委員会発行）

いわきの遺跡めぐり（2006年）

頁　　数　本文122頁/フルカラー

価　　格　840円

概　　要　遺跡めぐりのガイドブック。薄磯貝塚、寺脇貝塚、龍門寺遺跡、玉山古墳、根岸遺跡などいわきの主要96遺跡を収録。
（社団法人いわき市観光物産協会発行）

いわき地方史研究　第46号（2008年）

頁　　数　本文102頁

価　　格　1,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。特集－原始から近代までの生業・墓制・社会構造－特別寄稿１篇「焼塩壺の一つの流れ－いわき市泉城から豊田市挙母城へ－　渡辺　誠」論考・論説６篇、研究ノート１篇、研究余滴２篇。

いわき地方史研究　第47号（2010年）

頁　　数　本文63頁

価　　格　1,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。－本会設立45周年記念号－、論考・論説５篇、調査報告１篇、資料紹介２篇。

いわき地方史研究　第50号（2013年）

頁　　数　本文55頁

価　　格　1,500円

概　　要　いわき地方史研究会会報。－続々・東日本大震災復興祈願号－、論考・論説５篇、研究余滴１篇、資料紹介２篇。

いわき地方史研究　第51号（2014年）

頁　　数　本文57頁

価　　格　1,500円

概　　要　いわき地方史研究会会報。－東日本大震災復興祈願号Ⅳ－、論考・論説５篇、研究余滴１篇、新刊紹介１篇。

いわき地方史研究　第52号（2015年）

頁　　数　本文64頁

価　　格　1,500円

概　　要　いわき地方史研究会会報。－本会設立50周年記念号－、論考・論説５篇、研究余滴２篇、資料紹介１篇。

いわき地方史研究　第53号（2016年）

頁　　数　本文87頁

価　　格　2,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。－前会長菅原文也先生傘寿記念号－、特別寄稿１篇古墳時代における遺体を墳墓に葬るまでの課程について(2)－「殯(モガリ)儀礼」を中心に－　菅原　文也」論考・論説７篇。

いわき地方史研究　第54号（2017年）

頁　　数　本文79頁

価　　格　2,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。論考・論説８篇。

いわき地方史研究　第55号（2018年）

頁　　数　本文78頁

価　　格　2,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。論考・論説７篇、史料紹介１篇。

いわき地方史研究　第56号（2019年）

頁　　数　本文66頁

価　　格　3,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。－令和改元記念号－、論考・論説４篇、資料紹介１篇、史料紹介３篇。

いわき地方史研究　第57号（2020年）

頁　　数　本文62頁

価　　格　3,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。－前会長・菅原文也先生追悼号－、論考・論説４篇、資料紹介１篇、史料紹介３篇。

いわき地方史研究　第58号（2021年）

頁　　数　本文73頁

価　　格　3,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。論考・論説６篇、史料紹介２篇、追悼文１篇。

いわき地方史研究　第59号（2022年）

頁　　数　本文64頁

価　　格　3,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。論考・論説５篇、史料紹介１篇、資料紹介１篇。

いわき地方史研究　第60号（2023年）

頁　　数　本文66頁

価　　格　3,000円

概　　要　いわき地方史研究会会報。論考・論説５篇、史料紹介１篇、資料紹介１篇、書評１篇、研究余滴１篇。

いわき市未来づくりセンター発行図書

交通まちづくりの明日

頁　数　本文131頁

価　格　180円

概　要　運輸機能からみた社会変化の過程と今後
（2005年７月刊行）

いわきの未来を考える１

頁　数　本文136頁

価　格　210円

概　要　Series１農業　再生は可能か
誌上シンポジウム「いわきの農業の明日」
（1999年10月刊行）

いわきの未来を考える２

頁　数　本文155頁

価　格　210円

概　要　Series２地域経済　いわきの内発的発展に向けて
（2000年７月刊行）

いわきの未来を考える３

頁　数　本文181頁

価　格　210円

概　要　Series３都市構造　広域都市の特製を生かすには
紙上シンポジウム「”いわき合衆国”のこれから-多極分散都市の現状と展望-」（2001年９月刊行）

いわきの未来を考える４

頁　数　本文177頁

価　格　210円

概　要　Series４教育　地域と共に子どもを育もう
「子どもを育む家庭・学校・地域の連携」
（2002年２月刊行）

みらい１

頁　数　本文113頁

価　格　210円

概　要　特集　いわきの水、川、流域
（2000年10月刊行）

みらい２

頁　　数　本文131頁

価　　格　210円

概　　要　特集　いわきを循環都市にしよう
（2001年７月刊行）

みらい３

頁　　数　本文167頁

価　　格　210円

概　　要　特集　安全・安心のまちづくり
（2002年３月刊行）

みらい４

頁　　数　本文212頁

価　　格　210円

概　　要　活力に満ち創造力溢れるまちの形成
（2003年３月刊行）

みらい５

頁　　数　本文205頁

価　　格　210円

概　　要　市民活動への支援と協働のあり方
（2004年７月刊行）

みらい６

頁　　数　本文166頁

価　　格　210円

概　　要　いわきのまちづくりの視点、方向性
（2005年10月刊行）

みらい７

頁　　数　本文178頁

価　　格　210円

概　　要　まちづくり活動の現状と今後のあり方
（2006年６月刊行）

みらい８

頁　　数　本文164頁

価　　格　210円

概　　要　「誰もが暮らしやすいまちづくり」～ユニバーサルデザインのまち～
（2007年７月刊行）

みらい９

頁　　数　本文124頁

価　　格　210円

概　　要　「観光都市いわきを目指したまちづくり」
（2008年７月刊行）

みらい10

頁　　数　本文133頁

価　　格　210円

概　　要　「いわき市における学校のあり方」
（2009年10月刊行）

みらい11

頁　　数　本文128頁

価　　格　210円

概　　要　「基礎自治体いわき市における市民と行政の役割について」
（2010年９月刊行）

みらい12

頁　　数　本文140頁

価　　格　210円

概　　要　「食の地産地消について」
（2011年11月刊行）

いわき人（ビット）１

頁　　数　本文54頁

価　　格　120円

概　　要　2002年６月刊行

いわき人（ビット）２

頁　　数　本文65頁

価　　格　120円

概　　要　蔵の中の異空間
「農」という不思議な存在　他
（2003年６月刊行）

いわき人（ビット）３

頁　　数　本文41頁

価　　格　120円

概　　要　まちを歩く　さとを歩く　てくてく歩く
驚きと発見のワンダーランド「いわき」をめぐる小さな旅へのお誘い他
（2003年８月刊行）

いわき人（ビット）４

頁　　数　本文64頁

価　　格　120円

概　　要　じゃんがらJAZZ FESTIVAL
「水をめぐる物語」「名水を訪ねて」他
（2004年７月刊行）

いわき人（ビット）５

頁　　数　本文66頁

価　　格　120円

概　　要　SL撮影記　磐越東線に「蒸気」を追う
中釜戸のシダレモミジ「その木のまわりに…人々」他
（2005年７月刊行）

いわき人（ビット）６

頁　　数　本文66頁

価　　格　120円

概　　要　いわき　夕から朝への動と静
いわきbit（人）の声を聞く　シリーズ歴史を掘る　他
（2006年９月刊行）

いわき人（ビット）７

頁　　数　本文66頁

価　　格　120円

概　　要　いわきの小さな海を獲る
いわきの郷土料理を探る４　他
（2007年10月刊行）

いわき人（ビット）８

頁　　数　本文80頁

価　　格　120円

概　　要　自分だけの場所を探して
いわきの郷土料理を探る５　他
（2008年５月刊行）

いわき人（ビット）９

頁　　数　本文48頁

価　　格　120円

概　　要　いわき　色めぐり
いわきの郷土料理を探る６　他
（2009年７月刊行）

いわき人（ビット）10

頁　　数　本文48頁

価　　格　120円

概　　要　いわきの熱・あたたかさ
シリーズ歴史を掘る　他
（2010年８月刊行）

いわき人（ビット）11

頁　　数　本文48頁

価　　格　120円

概　　要　伝える力　シリーズ歴史を掘る
いわきbit（人）の声を聞く　他
（2011年10月刊行）

いわき市の合併と都市機能の変遷

頁　　数　本文266頁

価　　格　400円

概　　要　2004年９月刊行